

「もっと響く指導」に
するために!

生きたデータの徹底研究

「データ」を活用して客観的に生徒の状況を捉え、指導の方針を整理する方策を伝えてきた「生きたデータの徹底活用」。さらに響く指導を実現するために、現場の先生方と改めて指導のポイントを確認し、「データ」の改良を検討します。

テーマ 1年生 入学直後の取り組み



「生きたデータ」2012年2月号を参考に、
クラス目標づくりをしてみたところ……

入学生を高校生にするために学年団で共有する「クラスの目標づくりのポイント」

ダウン
ロード

ポイント	理由	これまでのクラス目標の例
クラス担任として「これだけは譲れない」というこだわりを、クラス目標などで生徒に示す	生徒が自立した一人の人間として自己決定できるようになるには、周囲の大人が生徒と対等な「一人の人間」として自らの意思やこだわりを示すことが有効だ。「担任はこういう人だ」と生徒が理解できるようなこだわりを示す。	「始業時などの挨拶は必ず相手の顔を見て、声を出して行う。出来ない人がいれば何度でもやり直す」(A先生)
達成に向けての努力を褒めることが出来るようなクラス目標を設定する	目標はただ掲げるだけではすぐに形骸化してしまう。目標に向けての努力を担当が日々評価できるような目標とする。やって当たり前ではなく、一定の努力が必要とされる目標を設定することで成長を褒め、更に意欲を高められる。	「授業開始1分前には着席し、静かに先生を待つ」(C先生) 「行事に全力で取り組み、学年1位を1つでもとる」(D先生)

私の狙い

自分たちで目標を掲げることで、高校生としての自立を促そうとした

取り組み内容

生徒から案を募り、担任である自分のこだわりも生徒に語りながら、「クラスの年間目標」を3つに決め、教室の後ろに掲示

感じた課題

クラスのまとまりは悪くなかったが、掲示された目標が話題になることは少なく、形骸化。高校生への「自立」のために、クラス目標を生かすきれなかった

「もっと響く指導」
のポイント

1

3年間を見通した自立に向けて
生徒が共感できる目標を掲げる



2012年2月号の「クラスの目標づくりのポイント」(上図参照)を読み、高校生の自立のためのクラスの目標づくりの意義を確認しました。しかし、実践してみるとクラス目標を根付かせるのは簡単ではありませんでした。目標の1つが「勉強できる環境づくり」なのに、教室の棚が散らかったままになってしまって……。クラスの中で目標が浸透したとは言えない状況でした。



新入生を高校生にして、高校生としての自立を促すには、まず新入生ならではの不安を取り除くことが大切です。クラス集団で一体感をつくりながら、自分の役割や居場所を見付けられる状態を、生徒自身がつくることが出

来れば理想的です。



全員で力を合わせて、クラス目標を実現させていく程クラスの居心地が良くなる。そんな目標を掲げるということですか……。確かに、私の場合は「もう高校生なのだから」と、自立というよりも規律の遵守を求めすぎていたのかもしれない。



もちろんそれも大切なことです。よ。しかし、生徒自身が成長や変化を期待できる言葉で目標を設定できないと、共感できずに、ひとごとと受け止められてしまうのかもしれない。生徒がいつの間にかクラス目標にこだわりきれなくなり、目標が形骸化するのそれは一因かもしれません。

若手先生代表

関東地方の公立高校に勤務。13年度は2回目の1学年担任。



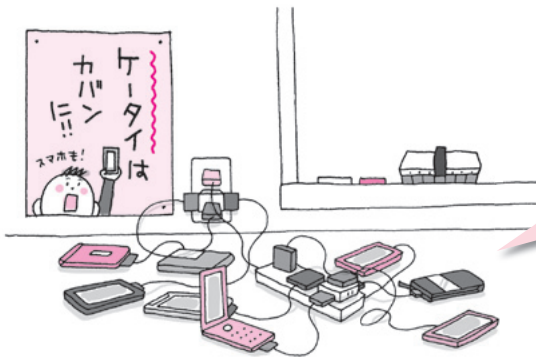
G先生(30代)

ベテラン先生代表

中国地方の公立高校に勤務。各学年の主任経験豊富。



T先生(40代)



以前、私のクラスでは「勉強できる環境づくり」というクラス目標の一環として「放課後まで携帯電話をカバンから出さない」というルールを全員で決めました。しかし、ふと気が付くと、教室のコンセントにはいつも充電中の携帯電話が……。



「もっと響く指導」のポイントと「生きたデータ」改訂案

● 「自立」のために「クラス目標」を活用する指導のポイント

- ・生徒自身が、高校生活に安心し、成長や変化を期待、実感できる目標にする
- ・学校として3年間で育てたい生徒像の到達へ向けた目標になるよう、学年団で軸となる目標を共有、目線合わせする

スクール・アイデンティティとリンクした「クラスの目標づくりのポイント」検討シート



クラス	〈学年共通〉 3年間で育てたい 生徒像	〈学年共通〉 1学年として 目指す生徒像	担任としての クラス目標案	新入生の 特徴を踏まえた 指導ポイント、留意点	指導ツールや場面
1組					・1学期 ・2学期 ・3学期
2組					

学年運営方針を議論する中で共有される要素を、生徒にも分かりやすく言語化する。クラス内で、1年を通して語り続けられるような言葉を選びたい

S Iあるいは学年の経営軸に繋がるものから、「クラス全員で協力し合って、少し頑張れば達成できること」を設定するとよい

データを生かす指導の流れ

具体的な文言は各クラスの裁量に任されていても、学年共通の指導軸と一致するものであるためには、クラス開きに先だって、学年団でのすりあわせが必要。

- 1 3年間で育てたい生徒像から、1学年として目指す生徒像を学年団で確認。各クラス担任の思いなども加味しながら、学年運営の軸となるものを学年団で共有。
- 2 学年共通軸を理解しながら、改めて各担任が自分のクラスの経営方針を、担任裁量で検討。
- 3 それぞれのクラスのHR活動で、生徒と共にクラス目標を言語化する。1年間の指導では、この目標を常に意識しながら活動を行う。

「もっと響く指導」のために改訂すると……



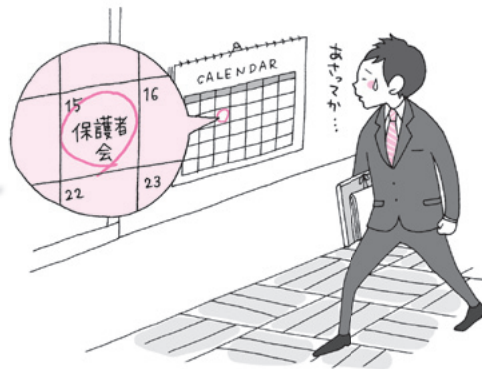
3年間で掛けて社会で求められる人間力を育成する、すなわち「自立」を促すのは、高校の使命でもあります。これは学校のスクール・アイデンティティ（S I）と強固に結び付くものです。各クラス目標がS Iに沿ったものであり、卒業まで生徒がどのようにこの学校で育っていくかを、各担任がS Iを感じさせながら語る事が大切です。例えば、「掃除で手を抜かないクラス、教室が整然としているクラスは入試でも良い成績を収める」とよく

言われます。これを自らが目指す姿、S Iとして生徒が理解することが出来れば、「勉強できる環境づくり」というクラス目標は、新入生の自立を促す学校文化となるでしょう。S Iと関連させて考えるには、おのずと学年団での目線合わせも必要になってきます。



3年間の成長を見通した目標設定と生徒にその意味を伝える声掛け、学年団で足並みをそろえた目標設定が新入生には必要なのですね。

保護者とコミュニケーションをとる大切さは分かっているつもりですが、実際には「トラブルが起きなければいいが……」と不安ばかりが先に立ってしまい、なかなか心を通わせることが出来ていません。



「生きたデータ」2012年2月号を参考に、保護者との関係づくりを試してみたところ……

「もっと響く指導」のポイント

2

学校との関係性を伝える先輩保護者の振り返りシート



テーマ・出来事	先輩保護者の振り返り(子どもが高1時の悩みや不安)	当時の学校からの回答
毎日の学習	<ul style="list-style-type: none"> 塾に行かせた方がよいのか迷った。 なかなか机に向かわず、テレビの前でだらだらしている子どもにイライラしてしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校からの課題と毎日の予習復習で十分です。本校では、授業中心の学習で入試学力も身に付きます。 「勉強しなさい!」では子どもは勉強しません。テレビを消すなど、学習できる環境をつくりましょう。
定期テスト	<ul style="list-style-type: none"> 中学校では考えられなかったような低い成績をとってしまい、子どもと共に落ち込んでしまった。 範囲が広く、テスト勉強の負担も大きいようで、本人が疲弊し、自信を失っているようだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校では同じような成績の生徒が集まっていますが、まだ差は大きくなく、ばん回は十分可能です。 短時間の学習では間に合いません。日々の予習復習の継続がカギになることを家庭でも伝えてください。

私の狙い

高校生活のイメージを伝え、高校生の保護者としての意識を高めていただこうとした

取り組み内容

過去の事例を用いて、保護者の方が悩みそうなことと、それに対する学校の考えを、入学式直前の学校説明会で伝えた

感じた課題

この資料への評価は高かったものの、これ以降も、保護者の方からの不安の声や要望の声は多く、効果があったようには感じられない

学校の実践を在校生の声と共に伝え、保護者に安心感を持ってもらう

保護者の皆さんに対して「高校生の保護者」としての意識を持っていただきたいと思うことは多々あります。

保護者との関係が難しくなったのは事実ですよね。でも、生徒を中心に考えれば、学校と保護者はチームになるべき関係です。

おっしゃることは分かります。でも難しいですよね。

保護者が学校に要望をぶつけてくるのは、学校と対立したいからではなく、子どもの幸福を願う気持ちがそれだけ強いからだとは考えられないでしょうか。我が子が一番かわいいというのは保護者として当たり前の感情だと

思います。

2012年2月号(上図)のように、学校の考えを伝えてみたのですが、それでもまだ保護者から要望や不満をいただいていたのは、不安な気持ちがぬぐえなかったからだと考えるべきなのですね。

学校が子どものためにしっかり指導していることが理解できれば、保護者は学校の強力な応援団になれる存在です。チーム化を進めるために、このデータを改訂して、高1の生徒の様子と保護者が抱えがちな不安を時期ごとに整理した上で、学校としての考えを伝えるだけにとどまらず、実際に行っている取り組みを伝えるのも一案です。



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、ダウンロードできます!

生徒指導・進路指導ツール集

Benesse® 教育研究開発センター

<http://benesse.jp/berd/>

生きたデータ

検索

今回のテーマに関連する過去のバックナンバーも同じウェブサイトでご覧いただけます。併せてご活用ください!

HOME→情報誌ライブラリ(高校向け)→

生徒指導・進路指導ツール集をご覧ください

2007年6月号「1年生1学期の保護者に対する意識付け」

2008年4月号「1年生を高校生にする意識付け」

2012年2月号「中学生から高校1年生への自立を促す入学直後の指導」など



「もっと響く指導」のポイントと「生きたデータ」改訂案

保護者の悩みに沿った学校の実践報告シート



テーマ・出来事	時期	先輩保護者の振り返り (子どもが高1時の悩みや不安)	当時の学校からの回答	学校としての取り組み	2、3年生の体験談
毎日の学習	入学直後	<ul style="list-style-type: none"> 塾に行かせた方がよいのか迷った。 なかなか机に向かわず、テレビの前でダラダラしている子どもにイライラしてしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校からの課題と毎日の予習復習で十分です。本校では、授業中心の学習で入試学力も身に付きます。 「勉強しなさい!」では子どもは勉強しません。テレビを消すなど、学習できる環境をつくりましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の間は教科ごとに予習復習の方法を特に丁寧に指導します。 ノートチェックや学習習慣調査を行い、家庭学習の状況を把握します。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語と数学の授業のペースの速さに戸惑ったが、予習用のプリントや週末課題に取り組むことで基礎が固まることが分かった。 先生に教えられた通りにノートを使うと、定期テスト対策が楽だった。
定期テスト	5月	<ul style="list-style-type: none"> 中学校では考えられなかったような低い成績をとってしまい、子どもと共に落ち込んでしまった。 範囲が広く、テスト勉強の負担も大きいようで、本人が疲弊し、自信を失っているようだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校では同じような成績の生徒が集まっていますが、まだ差は大きくなく、ばん回は十分可能です。 短時間の学習では間に合いません。日々の予習復習の継続がカギになることを家庭でも伝えてください。 	<ul style="list-style-type: none"> 中間テスト後、1年生は面接週間を実施し、担任が個別フォローを行います。 定期テストの成績は部活顧問とも共有しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 初めての定期テストは、勉強のペースが分からず失敗した。中学校と違って、テストの3週間以上前から準備しなければいけないと、先生に面談で教えてもらい、期末テストではばん回できた。

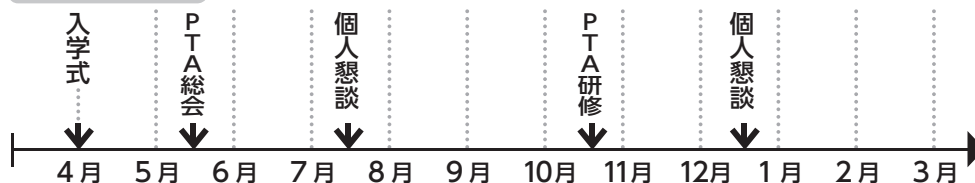
Point 1年間を通して、どの時期にどんなことが予測されるかを説明し、保護者に心の準備をしてもらうことも大切

Point 学校内の指導体制や在校生の生の声を掲載すると、学校の様子がより見えてきて、説得力が高まる

データを生かす指導の流れ

入学前説明会や入学式で資料として配布して終わりにするのではなく、学校行事のタイミングに合わせて、「本校ではこんな指導をしています」と伝え、安心してもらうようにする。

私の高校の例



「もっと響く指導」のために改訂すると...



こうしたシートを学年団で共有しておく、特に初めて担任をされる先生にとってはとても心強いバックアップになりますね。



「高校生の保護者だからこうあってほしい」とこちらが要望するよりも、子どもと学校の様子を知って安心してもらう中で、「自分は学校にどうかかわるか」をそれぞれの保護者に考えていただくイメージです。生徒がつまずきそうな時にも盤石な

指導体制があることを、**在校生の生の声で裏付けできれば、さらに生徒の成長の様子がイメージしやすくなり、保護者の納得度はぐっと高まる**でしょう。保護者が学校の様子をリアルタイムで理解できれば、家庭と保護者の連携はきっと強くなります。安心感と連帯感でチーム化を進めていきたいですね。



今年度の取り組みを次の学年に引き継げるように、保護者の声を記録していきます!